

2004年4月例会案内 4月4日(日) キャンパスプラザ (JR京都

駅歩3分)

午前9時40分受付 9時50分開会～16時 参加費 会員3000円 未会員4000円 申し込み要

午前の部 (9時50分～12時) レイキ・エネルギーヒーリングスキルアップ講座

第4講義室

講師 吉田元 (波動エネルギー療法研究家)

レイキはすばらしいヒーリングタッチです。しかしこのタッチは誰でも人間のもっている能力そのもの。お母さんのやさしい手のぬくもりみんな記憶にありますね。少しのことをすると初めての人でも気がでてタッチができるようになります。(ヒーリングタッチとは癒しのタッチといふことの総称として使っています。) 初めての人、レイキをしている人誰でもOK。

1:レイキは宇宙エネルギーそのもの。この波動エネルギーを体感し、その特性とすばらしい効果を体感していただく。

レインボー波動でエネルギーが曲がる。人間の境界は皮膚ではない。遠くから手に感じる波動。宇宙波動で心身が強化されるのをオーリングで確かめる。etc

2:波動エネルギーの手をつくる (人間の潜在能力を開くワーク)

地球の真ん中に伸縮する手、オーラーはこすると気が発する、宇宙一体瞑想法でエネルギーを保つ法など。

3:ヒーリングワーク

オーリングによるチェック法、クオンタムタッチ、高塚光のヒーリング、タンマヤレイキアナザーポジションとテレヒーリング、ノイズの抜き方痛いの痛いの飛んでいけ～編。

バスタオル、タオル持参ください。

午後の部 (午後1時～3時半)

自然運動法 (ホーリーワーク) 2階ホール

講師 高橋克幸先生 (トリニティ研究所代表、JHRA本部監査)

毎回楽しみなワークです。自然運動法として古くから注目されてきたワークで、心身の波動を高めて良い気を身体に巡らせる続けていると、潜在能力が開発されたりレイキの手の波動が高まるようになります。



JHRA関西支部発足1年記念例会 6月6日(日)

会場 ひとまち交流館京都 (京都河原町通り五条下がる東側) 075-354-8719

午前 会議室4,5 ホーリーワーク

午後 会議室4,5 ヒーリング朗読 (詩の朗読のもつ

魅力とヒーリング効果を体験していただきます。)

JHRA 関西支部例会報告

ホーリーワークとヒーリングマジックでたのしい一日

2月例会は2月4日、メセナ枚方で開催。午前はいつもの高橋克幸先生指導による「ホーリーワーク」で楽しく、汗を流しまし



た。毎回、なにか波動が変わるのがわかります。午後は竹本修先生のプロの手並みを拝見。ふーん不思議ですね。と見とれている内に時間が経ちます。

3本の長さの違うゴムが同じ長さになったり 指にかぶせるキャップが消えたりする。初歩的なマジックを自分でやってみるコーナーにみんな挑戦。にぎやかに楽しい午後をすごしました。

ヒーリングボランティア報告

ボランティアカンファレンス 2月12日

12日午後、京都駅前の「済済センター しんまち」でカンファレンスを開催。10名が参加して、彦根市立病院のヒーリングボランティアについての講義とヒーリング技法の実習を行いました。(右下写真)この日のボランティア登録で、登録者は30名を超えてきました。うれしいですね。登録していただいた方は、できるだけ早めにJHRA会員登録を忘れないようにお願いします。



第4回ヒーリングボランティア (彦根市立病院)

参加者 浅井豊子、北迫美津子、松下日富美、服部美津代、高城希代子(見学)、浅井保彦、吉田元

2月19日、彦根市立病院緩和ケア病棟でのボランティアに行きました。7名が参加。当日は7名の患者さんと人の家族の計11名に手分けしてヒーリングを行いました。この日は、初参加の服部さんもヒーリングに参加。もう一人の高城さんは見学だけとなりました。



参加しての感想 M.Hさん 名古屋市

退職してから2週間あまり、会社勤めの際は、自分のことに精一杯になってしまう自分がいた。時間ができた今、自分には何ができるのか、何がしたいのか、見極めをしているところだ。ボランティアは前々から経験したいことのひとつだったので、こんなに早く機会が訪れうれしくてわくわくしていた。行きの電車の中ではとにかく緊張していた。病院は駅からバスで10分程度。遠くから見ても病院とは思えない、市民会館のような外観。院内も新しく明るく大変いい雰囲気だった。従来の「病院らしさ」から出て、色使いや材質にこだわった造りだという緩和ケア病棟は8Fで、休憩室に入ると琵琶湖が一望でき景色も文句なしのところだった。初めての来訪だったが、運良く単独でヒーリングをさせていただく機会ができた。最初の方は、前日に入院されたばかりの年配の男性だった。

最初からずっと眠られ、ヒーリング途中も眠っては起き、を繰り返しておられた。体勢は、ひざを立て、手を胸や胃の辺りに置かれていた。起こしてはいけなそうと思い、また無理なお願いはしないようにと思い、手や足を動かさなくてよいように、かなり変則的なポジションでさせていただいた。後で振り返り、起こしてしまっても、もう少し動かさせていただいてもよかったかなあと思った。

この方は左腰が痛いとのことだったので、左の腸骨を主にさせていただいた。足のほうから痛みが出て行くように、腰から足にかけて繰り返して行った。肩や頭のほうは大変素直に受け取っていただいた。また、薬を飲まれてもなお眠気はあったようで、終始眠られていた。初めてまもなく、付き添いの方が戻って来られたが、会話をするよりはヒーリングに集中しようと思った。というよりは、ヒーリング中に会話してはヒーリーに対して失礼なのではないかと言いたい込みがあった。しかし同じ病室にいて無言ですごすのも、変な感じだった。休憩室に戻り、吉田支部長にそのことを相談したら、普通に会話したらいいんですよと教えていただいた。

次には患者さんと、付き添いの奥様のご希望とのこと、松下さんと2人で赴いた。ご自身は大変礼儀正しくしゃんとした方だった。ご自分で動くことができる方だった。お孫さんなどご家族からの手紙、絵が壁に所狭しと飾ってあり、ご人望の厚さを感じた。

奥様がしばらく戻ってこられなかったので、2人がかりでヒーリングをさせていただいた。松下さんはヒーリング経験の豊富な方で、気負わず、堂々とした振る舞いで大変学ぶことが多かった。患者さんも安心されると思った。お腹の辺りを2人交互にヒーリングさせていただいた。腸がかなり動きがあった。最初は緊張されていたようだが、途中で寝息が聞こえ、気を許していただいているかなあとうれしく思った。現在はボランティアは1ヶ月に1回なので、「一期一会」だ。その中で自分にできることを精一杯させていただきただけだ。

次回以降も参加させていただき、もっともっと学びを続けたい。明るく、自然に、自由に、堂々とやっていきたいと思う